
韓半島後氷期の植生史

崔 基龍

韓半島を対象にした花粉分析研究を中心に低地帯の植生変遷史と植生の地域的な成立と分化の時期を明らかにすることを研究の目的とした。その結果、約10,000 yr. B.P.以降に寒冷・乾燥な気候と植物の生育に不利な土地から温暖・湿潤な気候へ移行し始めた。そして土地条件の変化とともに先駆的で *Quercus* を優占とする落葉広葉樹林が急激に増加し始めた。*Quercus* を優占にする落葉広葉樹林時代以後約 6,000 yr. B.P.を前後にして東海岸の低地帯では *Quercus*→*Pinus*、西海岸の低地帯では *Quercus*→*Alnus*→*Pinus*の森林変遷がおこった。これは晩氷期以後の韓半島は温暖・湿潤な時代に移行したが同緯度上の日本とは異なり、より乾燥した気候下での環境変遷の過程を経たのをうらづけている。また約 6,000 yr. B.P.を前後にして東海岸と西海岸の低地帯の森林植生の地域的分化がおこなわれたと考えられる。一方4,500 yr. B.P.を前後して南海岸の低地帯には *Cyclobalanopsis* が急増し、これは約 2,000 yr.B.P.までつづく。約 2,000 yr.B.P.以後 *Quercus* と *Alnus* を優占にする落葉広葉樹林と *Cyclobalanopsis* を優占にする常緑広葉樹林の分布域がせまくなり、*Pinus* を優占とする針葉樹林の分布域が拡大した。一般的にはこの時代を人類による森林破壊でマツ林が増加する時期に説明している。しかし約 2,000 yr.B.P.前後の海水準の変動による瘠薄な裸大地の露出と乾燥な気候帯の拡大のためマツ林の分布域がより拡大した可能性があると考えられる。

蔚山大學校 自然科学大学生命科学部
〒680-749 韓国蔚山市南区無去洞
Department of Biological Science, College of Natural Science, University of Ulsan,
Mugeo-Dong, Nam-ku, Ulsan, Korea